

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472300052		
法人名	社会福祉法人ウェルフェア仙台		
事業所名	仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム		
所在地	宮城県伊具郡丸森町館矢間山田字市子沢1		
自己評価作成日	令和 5年 12月 25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6年 2月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然の中で、一人ひとりが自分のペースで穏やかに生活できるような支援を努めています。認知症があったとしても、周囲の支援を受け、個々に役割を持ち、自分でできることはできるだけ行えるよう支援に努めております。また、極力自己決定出来るような情報提供をした上で自己選択をしてもらい、入所前の生活、自分が希望する生活を継続していけるよう支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、阿武隈急行丸森駅から1.5kmの自然豊かな高台にあり、敷地内に同法人の特別養護老人ホームとデイサービスが併設されている。法人看護師や栄養士と連携して入居者主体のケアに繋がっている。個々の入居者の思いを把握し、自分の事は自分で決めるを基本に、今ある能力を最大限に活かせるように支援している。入居当初に帰宅願望のあった方も、時間経過と共に職員との信頼関係が築かれ穏やかに過ごしている。日課になっている体操やゲームは、笑顔があふれ活気のある雰囲気である。職員同士は情報を共有し、統一したケアに努めている。町職員とも相談し易い関係性が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 高齢者グループホームリリーハイム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に、理念について研修を実施。日々のケアの中でも、理念の浸透を意識し、具体的に日々のケアで何をするか等毎日の申し送りを利用し実践に結び付けていく。	理念の「思いやりを持ちゆったりと向き合い寄り添い介護します」を基に、チーム目標を年に1回見直している。週礼で唱和し「健康状態を保つため出来ることはやってもらい～」を目標に一丸となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナの影響もあり、地域との直接的な交流の機会は減少しているが、行政、ご家族代表、地域の代表も参加し、定期的の実施している運営推進会議を通して、地域との情報の共有の機会を継続し、内容を職員にも共有。コロナの状況を加味しながら、事業所主催の認知症カフェ等外部との直接的な交流の再開を検討中。	同法人で認知症カフェが初めて開催され、入居者と会場の飾りを作成した。ホームの紹介ファイルを作成し、参加者に紹介出来た。婦人会の草むしりボランティアの来訪や地域住民から米や柿の差し入れ等の交流が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の継続的な開催。コロナ前は町主催の認知症カフェへの参加実績もあり。現在はコロナの影響もあり、外部との接触の機会が減少しているが、落ち着いた次第実施を検討。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を基本として、定期的実施。実際のサービスの状況を画像も合わせて共有している。行政、ご家族、地域の代表の方にも参加していただき、いただいた意見を職員にも共有することで、サービスの見直しの貴重な機会として活用している。	メンバーは町職員や民生委員、家族代表で、年6回開催している。入居者の状況や行事予定、事故報告、ヒヤリハット事例等を報告している。浴室の改装中の入浴対策の質問など、意見交換が多数されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在は、運営推進会議でのサービス内容の共有が主となっております。入居者状況、待機者人数の情報を共有している。	介護保険の更新や区分変更等の諸手続きでケアマネが出向き相談、助言を得ている。地域包括から入居の問合せがあった。町から認知症や感染症、身体拘束の研修案内があり参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針の整備、委員会の設置、定期的な研修の実施。身体拘束に該当するような案件はないが、身体拘束につながる不適切ケアの内容とその対応と現場での実践について、運営推進会議でも共有し、身体拘束をしない環境整備に努めております。	「身体拘束廃止委員会」を3ヵ月毎に開催している。事例検討でマニュアルや指針を確認したり、資料による研修を行っている。外に出たい方と一緒に外を歩き、ゆっくり話を聞く等見守り介護を実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の実施。日々の申し送りにての不適切なケアの発生しない環境の整備。	スピーチロック等は虐待に繋がると捉え、職員間で注意し合っている。玄関は施錠せず、外出傾向のある方には所在確認のチェックシートを作成し対応している。チームワークが良く相談し易い環境が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の実施と全職員への内容の共有。日々の申し送りの中での共有。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に対して、契約書と重要事項説明書を用いて丁寧に内容を説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、カンファレンスの際に、状況の共有。日々の状況については、随時、電話等にて情報共有し相談の機会を設けている。内容については申し送り事項にて、共有している。	通院付添い時に意見や要望を聞いている。「運動させたい」には1日2回の体操や個別体操を実施している。体操を拒む方は屋外にゴミ捨てに行く。「飴を舂めさせたい」「趣味の編み物をさせたい」等にも対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りでの共有。担当職員から情報を細かく収集する事で、職員からの意見や提案を聞く機会を設け反映させていく。	浴室は職員からの提案で改修が実現した。入居者に合わせ浴槽や手すりがスライドし浴槽が跨ぎ易くなり、入浴介助が楽になった。食事や服薬の提案で、食器の見直しや服薬ゼリーの使用等に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時での面談にて、職務上の希望の把握。希望休以外にも、業務に支障のない範囲での、個人の希望を受け付け働きやすい環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施と内容の共有。コロナの影響もあり、外部研修の機会は減少しているが、研修の情報については共有し、参加の機会を設けている。オンラインでの研修も増えているので、研修の機会を設けている。仙南ジェロントピアでの内容を共有している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	仙南ジェロントピアでの内容を共有している。コロナの影響もあり、外部研修の機会は減少しているが、オンラインでの研修の情報については共有し、参加の機会を設けている。	薬剤師が来訪してくれるので錠剤の粉碎が可能かどうか等、服薬の相談が出来る親しい関係が出来ている。ケアマネはケアマネ協議会に参加し、資料はファイル化して職員が見られるように共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時については、申し送りを細かく設定し、情報を共有している。意識的に利用者様の話を傾聴し、不安材料を解消できるように、信頼関係の構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の聞き取りの時点で、本人様のバックグラウンドから確認し、家族様の思いを丁寧に傾聴することで、いつでも気兼ねなく相談出来る関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、在宅時の介護支援専門員からも、身体状況を確認し、必要に応じたサービスについても家族様に説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の状況に合わせて、役割について検討し、出来る範囲で職員の協力を得ながら、対応していただく。その際には、感謝、ねぎらいの言葉を合わせてかけるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様への状態報告を密に行ったり、催事への参加の呼びかけ等行い本人を共に支えていく関係を築くように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で現在は直接の交流は減少しているが、知人の来訪がある。自宅近辺方面が併設のデイサービス利用日に訪問の機会を設けている。散髪も町内の理容所が定期で来てくれる。	特養に入所の家族やショートステイ、デイサービスの知人に面会に行く支援をしている。遠方から来訪の親族と町内の宿泊施設に外泊し、翌日に通院して戻るなど楽しむ事もある。馴染みの店で洋服を購入する。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、時には、利用者同士の関わり合いを見守ったり、仲立ちをしたりして交流支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じて退所後の相談にあたってい る。比較的併設施設への入所が多く、情報 提供や入所後の訪問確認などフォローに努 めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや意向の把握に 努めている。聞き取り出来ない場合は、家族 様に聞き取りをしたり、本人本位を念頭にお き、検討している	何がやりたいか何が食べたいか、日常の会 話の中や個別に話せる機会に聞き取り、思 いや要望は申し送りノートで共有している。食 が細くなった方の「筋子が食べたい」の要望 に応え、食欲が戻り家族に喜ばれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入所申し込みの時より、詳しく聞き取り、出 来る限り把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での様子観察と職員間での 情報収集、交換、共有で、現状の把握に努 めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	アセスメント結果に基づき、課題分析を行 い、自立支援を念頭に置き、本人本位の介 護計画となるように関係者間で話し合い、作 成している	抜歯を拒む入居者は、歯を飲み込むと誤嚥 の危険もあることから、毎食後に歯の残存を 確認する事をプランに入れた。入浴を拒む理 由が便秘と分かり、医師の指示で薬が処方さ れ、スムーズな入浴支援に繋がった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入や、朝、夕の申し送り時 に、口頭での申し送り、申し送りノートを活用 しての情報共有を通してケアへの実践や介 護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のニーズに可能な限り 対応できるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の方に、通院介助や気分転換の為の外出介助等で、協力して頂いている。行事等への参加と協力依頼等呼びかけ、家族と楽しむ場を設けている。芋煮会には、家族、町の職員、民生委員、理髪ボランティアにも参加して頂いている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所前の主治医であり、家族様対応で受診して頂いている。受診時は、バイタル記録の写しを持参。体調不良時は、関係者間で話し合い、適切な受診ができる様にしている	受診時は家族に事前に申し送りをしている。法人の看護師が健康管理をしている。体調不良時はかかりつけ医に相談するが、対応時間外の際の搬送先を事前に意思確認書で取り決めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設看護師に状況や、状態を報告し指示やアドバイスを受けている。また、受診時に必要に応じて、生活状況をこちらで準備してお渡しし、スムーズに受診が出来るように配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院中、退院前、退院後と病院関係者との情報交換を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応に係る指針」が文書化されており、入所時に、家族に説明し、「事前意思確認書と重度化時対応希望書」を得ている。急変時は施設長、看護師に連絡の上、救急搬送している。看取りは、体制がない為未実施	看取りは対応していない事を入居時に重度化の指針を入居者と家族に説明している。要介護3になった以降の選択肢を説明し、特養や病院等へ繋いでいる。入院時も極力ホームへ戻れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設と合同で実施している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で実施している。	法人3施設合同で夜間想定を含む避難訓練を2回実施した。施設間の連携を図っている。備蓄品の保管場所も協力し分担保管している。災害時の地域避難所になっているので。食料品などは1週間分保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や人格を尊重しながら、その方にあった話し方や、言葉かけをしている	入浴や排泄、着替え時はドアやカーテンを閉める等のプライバシーに配慮している。トイレ誘導は「トイレに行きましょう」と小声でしている。呼び名は「さん」付けとし、馴れ馴れしい言葉使いにならない様にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自の意思を尊重し、思いを伝えることができるような支援を心掛けるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大事に、臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に担当職員を決め、本人の希望に沿った服装や髪型ができるように支援している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握して、嫌いな物には、代替え等に対応している。ホームの畑で収穫した野菜を調理したり、干し柿作り等もしている。また、芋煮会では、各自、得意な分野で、準備に携わっている	畑の白菜やキュウリ、トマト、モロヘイヤを入居者が収穫した。野菜は味噌汁や漬物、お浸しで食卓に出た。トマトは取って直ぐに食べて楽しんだ。好き嫌いをチェック表で把握し、美味しく見える食器の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の病気や体調に合わせた支援をしている。また、水分や栄養摂取状況が思わしくない方に対しては必要に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗口液を使用し、口腔状態や本人の能力に応じた口腔ケアを実施して清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着やパット等各自にあったものを使用し、時間帯により、変えてみたり、排泄間隔を把握し誘導したり、サインを見逃さず誘導する事で、トイレでの排泄に結び付けている	全員にトイレでの排泄を支援している。入居前紙パンツだった入居者も定期的なトイレ誘導とチェック表の活用により、2名が布パンツとなった。夜間も定時ではなく個々の就寝時間に合わせ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握に努めている。飲食物の工夫や、水分補給、運動の働きかけ等、便秘の予防に努めている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	熱いお風呂が好きな方、ぬるいお風呂が好きな方、カサスの行水が好きな方、ゆっくり入られる方、希望に沿った支援をしている。上機嫌で、歌をうたったりして入浴を楽しんだりしている	入居者は浴室の改修を楽しみに待っていた。一番風呂や長風呂等の希望に応えている。入浴剤を楽しみ入浴後はスポーツドリンクや職員の作る砂糖と塩、酢の入った特製ドリンクを楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や身体状況に応じて、休息したり、心地良い睡眠がとれるように支援している。寝具の調整や室温の調整にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方内容の把握と服薬確認の徹底、症状の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみごとや役割を見出して張りのある生活が送れるように支援している。飽きないように、楽しみ事や役割も考慮し、レパートリーを増やしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの敷地内での散歩が中心になっている家族の協力を得て、外出している方もいるが、少数であり、タイムリーに希望にお答えできる体制作りが今後の課題。	ブルーインパルスが描くハートをウッドデッキから感動して眺めていた。敷地内は四季折々の花が咲き、入居者は楽しんでいる。敷地の周囲の桜並木は見事であり、3人ずつゆっくり歩いて花見をする。今後は個々の希望に沿い個別の外出の機会を作りたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理が困難な方が、ほとんどであり、職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿えるように支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせたレイアウトを心掛けている。ゆったりと過ごせる居場所作りを心掛けている	壁には入居者が作った塗り絵や書道作品が飾られ、雛人形が季節を感じさせる。大きな手作りの日めくりカレンダーがある。テレビはYouTubeも見ることが出来、好きなドリフターズや美空ひばりの番組を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの落ち着く空間があり、出来る限りその空間を維持できるように工夫して対応している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人の希望を取り入れて、家族様とご本人様が協力してレイアウト等を考え、居心地良く過ごせるお部屋にして頂いている。混乱の要因になるものに関しては家族様と話し合い改善に努めている	押入れやベッド、エアコン、カーテンが備え付けてあり、筆筒やパイプハンガー等を持ち込んでいる。裁縫が得意な方はほつれ直しをし、植物好きな方に家族から鉢植えが届き居室で育て、ゆったりできる居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備をして入居者様が安全で、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している		